

2022年1月1日  
特定非営利活動法人アジアクラフトリンク 理事長 斎藤秀一

2022年 年頭にて

明けましておめでとうございます。2020年からの新型コロナによる社会停滞とミャンマーでの2021年2月の政変クーデターによって、私たちの活動制約も、もうしばらく続く事を覚悟しなければならないでしょう。

その環境で、私たちが目指している事は

- 1、ミャンマー・バゴー地区の木工産業の発展と自立を確立する。特に今年はユーカリを対象にした植林—材料調達—商品開発—市場開拓のサイクルを完成させたい。
- 2、ヨーロッパ市場開拓を手掛けたい。自主事業の場合は容易と予想。しかし現地の人々の力によるフェアトレード生産組合結成とセットにすると人材と時間が必要になる。
- 3、バゴー地区での成功例を他地域の木工産業や、竹・ラタン工芸産業、草木染・手織といった他業界へ紹介し、発展を支援する事。
- 4、ショップS a i事業の売り上げを引き上げて、団体が助成金なしで自立できるようにしたい。しかし当面は、助成金の活用で人材を確保して、現地と日本での活動を維持したい。

上記目標を達成するために

A：ミャンマー事業では

- 1) 2020年度N連事業を延長し、計画を完結させたい。講習会2-3回開催と植林活動、さらに講習会の内容をテキストにまとめて現地カウンターパートのSSIDを通じてミャンマー全体へ広報する。
- 2) バゴー地区での木工産業育成の実験を成功させ、その成功体験をSSIDと共同でミャンマーの他地域（ヤンゴン、マンダレー、ネピドー）へ波及させる事業を、2025年夏までの3年計画として立案する。SSIDの技術センターを上記3地域へ共同で設置し、バゴーで導入実験をしてきた加工機械や講習プログラムを活用し、バゴー地区のシニアエンジニアを臨時講師として派遣する、この3点の支援により上記3地域での成功を目指す。
- 3) バゴーの技術センターは、上記1)のあとも続けて運営し、上記2)の活動の支援拠点にする。
- 4) ユーカリ事業は植林—原料木材の安定調達—商品開発—市場開拓を継続、実行。
- 5) 竹関連ではMRBEAとの連携体制を維持し（MoUは継続）、できる時にできる方法で相互に協力する。当会ができる事は、日本市場の紹介。
- 6) 手織、蓮糸、オーガニックコットン関連では、サウンダース織物専門学校との連携を維持し、できる方法で相互協力を継続する。
- 7) 北シャン州ナムサン地区の有機紅茶は、日本市場への紹介を継続する。

B：日本の事業では

- 1) ショップ S a i 事業の自立に向けて、収益事業を早急に黒字化するための販売促進に集中する。特にネット販売に力を入れる。近い将来には S K プランから在庫を買い取り、自主運営できる体制を目指す。
- 2) 事業を実施していくために可能な助成金を申請し、人材育成と組織構築を継続する。
- 3) 関連団体との連携・協力を継続し、活動の拡大や P R に努める。会員や寄付の募集も継続して行う。